





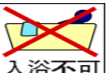











# 大腿骨・下腿骨折 骨接合術を受けられる患者様へ

- ・入院期間は変更があることもあります
- ・詳細につきましては、入院された後、看護師より説明させていただきます

経過	1日目	2日目	3日目	4日目	5-6日目	8日目	9日目	12日目	14-15日目	16-18日目	19日目		
日時	入院日 手術前( / / )	手術前日( / / )	手術当日( / / )手術前	手術当日( / / )手術後	手術翌日( / / )	術後2日目	術後3-4日目	術後6日目	術後7日目	術後10日目	術後12-13日目	術後14-16日目	術後17日目
目標	・医師、看護師の説明を受け、手術に安心して臨むことができる	・安全に手術が受けられるよう準備ができる	・手術や麻酔による異常が早期発見、対処される ・痛みが緩和され、手術部位の安静を守ることができる ・深部静脈血栓症の予防に努めることができる	・痛みのコントロールを図り、理学療法士の介助で車いすに移ることができる ・転倒転落が予防できる ・深部静脈血栓症の予防に努めることができる	・痛みがコントロールでき、免荷を守ることができる ・転倒転落を予防できる ・深部静脈血栓症の予防に努めることができる	術後、適宜レントゲンの検査をします						・退院後の生活について理解できる	
検査		手術室入室予定時間( : )											
治療		   □手術時から点滴を行います □( )時頃点滴を行います	・抗生剤の点滴をします ・点滴は翌々日まで続きます	→	抗生剤の点滴が終了し、点滴の針を抜きます								
説明・観察	・手術の左右確認のためのリストバンドをつけていただきます 看護師が、これまでにかった病気、飲んでいる薬などについて伺います。現在内服中のお薬は、お薬の説明書と共に看護師にお渡しください ・深部静脈血栓症予防のために弾性ストッキングの採寸を行います ・手術に備え、和式の寝巻き1枚、T字帯1枚、バスタオル1枚をご用意下さい(アメニティご利用の場合はT字帯のみをご用意ください) 退院支援については下記※を参照してください ・持参した説明書/同意書を看護師にお渡しください	・時計、指輪、眼鏡、コンタクトレンズは予め、はずしておいてください。義歯は必ず必要はありませんが、看護師までお知らせください ・手術当日の朝の内服薬については看護師から説明します	・手術後、尿道に管が入っています。管の違和感、痛みなどが強い場合はお申し出ください ・体温、脈拍、血圧を定期的に測定します。心電図モニターを付けます	・日常生活動作の状況に応じて尿の管を抜きます。その後はポータブルトイレで排泄を行います ・松葉杖を使用して手術した足には体重をかけずに歩行練習が始まります	←	←	←	←	←	←	←	←	←
処置	・必要時、手術部位周囲の毛剃りを行います ・排便がなければ浣腸を行います	手術しない方の下肢のみ血栓予防ストッキングを着用して頂きます	主治医により創部の傷の診察を行います										
清潔	シャワー又は清拭を行います		タオルで体を拭きます		→	主治医の許可が出れば看護師見守りの元、シャワー浴が可能になります							
活動	手術する側の足には体重をかけることができません。手術までは基本床上安静となります	ベッドまたは車椅子で手術室に行きます	足指・足関節を動かし、血栓予防を行いましょ	 	理学療法士が病室でリハビリを開始します		関節の可動性を高める運動、筋力をつける運動をします		→	→	→	→	→
理学療法士と相談しながら順次リハビリ開始													
食事	 普通食	手術前日は、夕食まで食事をとってください	手術当日は欠食です		手術帰室後は絶食です。お腹の音を確認し、許可が出たら飲水ができます(目安は3時間後です)	朝食から食事が出来ます							

※1 退院後、安全安楽な生活を送るため、日常生活動作に応じてリハビリ病院への転院又は自宅退院を提案いたします。転院調整には時間がかかるため、術後早期に取り掛かります。

患者様の御意向に沿えるように、医師、病棟看護師、ソーシャルワーカーが協力しながら進めさせていただきます。退院又は転院は医師の許可が出れば可能になるため、入院期間が前後することがあります。